

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究
実施方法等

1. 実践校について

実践校名	(しがだいがくきょういくがくぶふぞくちゅうがっこう) 滋賀大学教育学部附属中学校		
学科名	児童・生徒数	学級数	
	335名	9学級	

2. 実践研究の対象

全学年，335名，9学級

総合的な学習の時間 「BIWAKO TIME」

教科での取り組み 2年生 107名 国語科

3年生 120名 社会科

3. 実践研究の実施経過

(1) BIWAKOTIME の実施

時間	日時	内容	備考
1	4月25日(木)	総合学習ガイダンス	全員で総合学習のガイダンスを聞き，希望するグループを決定する。
2, 3	5月24日(金)	研究テーマ決定 研究計画書作成	グループごとに分かれ，「研究テーマ」と「問い」を決め，研究の計画を考える。
4, 5	6月12日(水)	面談 学習企画書完成	ピラミッドストラクチャーを用いて，面談。アドバイスをふまえ計画を改善する。そして次回からの計画を具体的に記入する。
6, 7	6月19日(水)	調査研究活動①	調査研究活動を始めるための諸準備をし，活動を始める。近場の校外活動可能日。
8	6月25日(火)	調査研究活動②	校外活動や夏休み中の計画を立てる。校外活動のアポ取りもこの日までに行う。
9, 10	7月3日(水)	調査研究活動③ OPE	研究の問いと仮説，具体的な研究計画を立てる。校外活動可能日。
11	7月10日(水)	調査研究活動④	夏休みならではの調査研究のために，施設の見学や長時間にわたる校外調査活動に向けて準備する。

	夏休み	調査研究活動	1 期末にグループ内で確認した調査研究活動に取り組む。
12	9月4日(水)	中間整理1	夏休みでの調査研究活動についてベースルームの先生からアドバイスをもらう。
13	9月11日(水)	中間整理2	今までの調査研究活動について思考ツールなどを用いてまとめる。
14, 15	9月18日(水)	調査研究活動⑤OPE 発表準備①	研究の方向性についてベースルーム内で交流会を行う。
16, 17	9月25日(水)	発表準備②	最後の校外活動可能日。
18, 19	10月7日(月)	発表準備③	発表の原稿づくりをする。
20	10月16日(水)	発表準備④リハーサル	各自任された発表の準備・練習
	秋休み	発表準備	
21, 22	11月6日(水)	調査研究交流会	ベースルームごとに交流会を行う。
23	11月18日(月)	反省とまとめ	今年の研究をしっかりとめ、今後の学習につながるようにする。
24, 25	12月2日(月)	まとめの集会	成果の顕著であったグループの発表にふれ、「学び方を学ぶ」ことができたかを確認する。

(2) Subject Time (ST) での取り組み

①社会科での取り組み

○「わたしたちの生活と税」

第1次 「租税教室」 7月9日

税理士の方を招き、実際の税にかかわる話を聞くことによって税への理解と関心を深める。

(「税に関する作文」を夏休み課題とする)

第2次 「財政のはたらき」 11月15日

財政についての学習を通して、税金の使い方の変化を読み取り、今後、自身が生きていく社会での使い方について考える。

第3次 「国の収入を支える税と国債」 11月20日

税の種類と累進課税制度について学び、税制度のあり方について考えることで税のあり方について考える。

第4次 「わたしたちの生活と税」 11月21日

最近の話題でもある「イートイン脱税」について、8%で購入する人・周辺の人・店員の3つの立場に立って「イートイン脱税」についてとらえ、その改善方法について公正と効率の視点から考えることで税のあり方について考える。

第2次から第4次の税についての学習では、単元を貫く問いとして、「わたしたちが納

める「税金」の望ましいこれからのあり方とは？」を設定し、学習ごとに記入していくことで深めさせる。

○「選挙の意義としくみ」

第1次 「民主政治と選挙」 11月5日

選挙の原則について学び、選挙公報での政策を比較することで、自分が将来、有権者としてどのように政治に参加することが望ましいかを考える。

第2次 「選挙制度と問題点」 11月7日

選挙制度とその課題について学び、課題の1つである「投票率の低下」について公正の視点から改善策を考えることで、自分が将来、有権者としてどのように政治に参加することが望ましいかを考える。

第3次 「模擬投票」 11月8日

大津市選挙管理委員会事務局の方を招き、模擬投票を行う。立候補者や受付・立会人なども生徒が行うことによって実施の選挙に近い投票を行うことで、自分が将来、有権者としてどのように政治に参加することが望ましいかを考える。

第1次から第3次の選挙についての学習では、単元を貫く問いとして「有権者としてどのように政治に参加することが望ましいか」を設定し、学習ごとに記入していくことで深めさせていくことを行う。

②国語科での取り組み

○「郷土を愛する達人のことば—インタビューをもとにリーフレットをつくろう—」

第1次 「単元のゴールを意識し、『達人のことば』を読む」 12月2日

単元のゴールが、大津市歴史博物館副館長の和田光生氏の大津祭をテーマにした講演を聞き、インタビューによる記事を作成することを意識し、教科書（三省堂2年）に収録の教材文「達人のことば」を読む。

第2次 「『達人のことば』からインタビューを再現する」 12月4日

「達人のことば」がどのようなインタビューをもとに作られたのかを考え、質問を再現する。また、読み手の印象に残る記事にするため、本文にどのような記述の工夫があるのかを見出す。

第3次 「インタビューの際の質問を考える」 12月9日11日

授業担当者による大津祭の概要説明。実際に自分たちがインタビューをする際の質問をグループごとに考える。

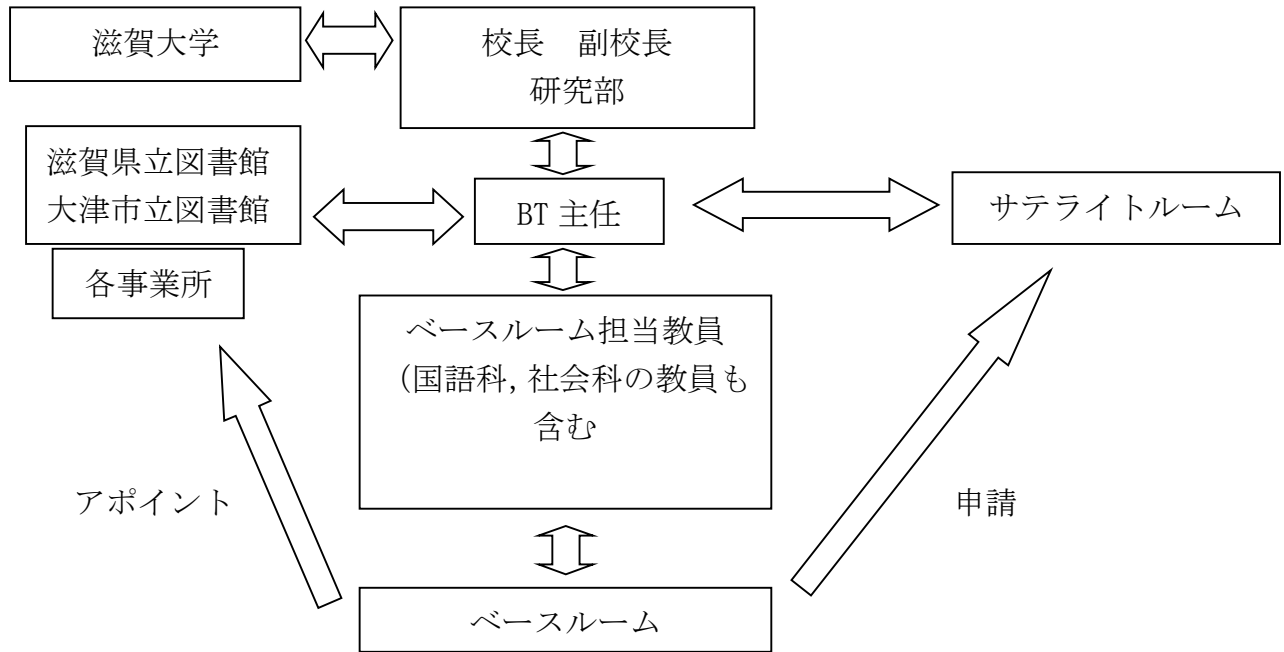
第4次 「大津祭に関する講演およびインタビュー」 12月16日

前半1時間は和田氏による大津祭をテーマにした講演を3クラス合同で聞く。後半1時間はインタビューを実施する。その前に、前時にグループごとに考えた質問を講演の内容をふまえたものに練り直す時間を設け、更新された質問でインタビューに臨む。

第5次 「インタビュー記事の作成及び完成作品の交流」 12月18日19日、1月16日

インタビュー記事の作成に取り組み、完成した作品の交流を通して、批評し合い、さらに思考を深める。

4. 実践研究の実施体制



実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：滋賀大学教育学部附属中学校**概要**

総合学習「BIWAKO TIME」（以下「BT」）や教科における実社会とのつながりを意識した取り組み「Subject Time」（以下「ST」）において地域の事業所や公共施設と連携を図りながら、実社会とのつながりを持たせる教育課程を実施する。中でも「BT」を通して「郷土である滋賀」を学習フィールドとし、各教科や情報の時間の学習で得た知識や体験を生かすとともに、「BT」で学んだことを各教科での学習で生かせるように、「学び」をより活用できる力へと再編することを通して、「学び方を学ぶ」ことを育む学習プログラムを開発する。

学習プログラムの目標

- ① 課題発見や解決の仕方、学習成果の発表などの学習過程を通して、生きてはたらく学び方を身につけさせる。
- ② 学際的研究を通して、課題追究の技能を習得させ、幅広いものの見方や考え方を身につけさせる。
- ③ 自主的・主体的に学ばせるとともに、仲間と協力して学ぶ態度を身につけさせる。
- ④ 郷土・地域やびわ湖についての認識を深めさせ、それらとともによりよく生きようとする態度を身につけさせる。
- ⑤ 身近な課題が、広く社会・世界の課題に通じていることを認識させ、現在や未来の社会をよりよく創造していこうとする意欲を喚起する。

学習プログラムの主な内容

「BT」の学習プログラムについては、次のとおりである。

- ① 課題設定
滋賀県の文化・歴史・自然など自らの課題を見だし、仮説や問いを立てて、調査研究に向けての計画を立てる。
- ② 調査研究
調査計画に従って、過去の研究成果やインターネット、書籍から情報収集を行う。そして、複数ある情報に対して思考ツールを活用して共通点や相違点を見つけ、整理・分析をする。
- ③ フィールドワーク
グループごとの調査研究に応じて、フィールドワークを行う。
- ④ 意見交流
領域別発表会やまとめの集会にて、各グループで発表し、質疑応答を行う。各グループの訪問先には、領域別発表会にご参加いただき、アドバイスもいただきながら研究を深

める。

⑤ 課題解決に向けた取り組み

領域別発表会を公開授業として、チラシを作成し、ホームページに記載する。総合学習を語る会も開催し、全国に向けて発信する。

「ST」における学習プログラムとして、

①社会科での取組

外部講師による講義

2つの単元で外部講師による講義を行った。まずは、「租税教室」において滋賀県税理士会より税理士を招き、税についての知識やそれに係わる課題について理解と関心を深めた。次に「模擬投票」において大津市選挙管理委員会事務局の方を招き、選挙の投票を体験した。体験を通して有権者としての責務について理解を深めた。

グループディスカッション

どの授業においても、グループディスカッションを通して自他の意見を交流させることで自分の意見を深めさせた。また、税に係わる身近な課題を取り上げ、3つの立場で考えさせることで多面的なものに見方を養うことができた。

②国語科での取組

外部講師による講義

大津市立歴史博物館より副館長を招き、大津祭りについての知識やそれに携わる方々の思いを知ることで、郷土を愛する心を養った。